令和5年度第3回平塚市在宅医療介護連携推進協議会会議記録

日 時 令和6年3月21日（木） 14時00分～15時40分

場 所 平塚市役所本館 619会議室 オンライン会議

出席者

○ 委員14名

内門委員、倉田委員、萩原委員、三觜委員、望月（和）委員、岩淵委員、渡辺委員、稲瀬委員、片桐委員、杉木委員、牧田委員、田中委員、望月（真）委員、石原委員

○ 事務局6名

岸福祉部長、（地域包括ケア推進課）久保課長、鈴木医療・介護連携推進担当長、宮下主査、高野会計年度任用職員、（高齢福祉課）横山高齢者相談支援担当長

○ 平塚市在宅医療・介護連携支援センター3名

石井氏、大平氏、泉谷氏

開 会

1 福祉部長あいさつ

1-2 議事進行 会長

○定足数及び傍聴者数の確認

2 議 題 報告事項

(1) 令和5年度認知症施策について

・高齢福祉課 横山担当長 による資料1を用いた説明

9月の世界アルツハイマー月間にあわせて、噴水のライトアップ、街頭キャンペーン、湘南ベルマーレホームゲームでの普及啓発等周知に努めた。

認知症の母の介護を通して、家族や地域のつながりについて学ばれたことなど、女優でモデルの秋川リサさんに講演をいただいた。また、東海大学グローバルフェスタ出店では、ベルマーレとコラボして275名の参加者があった。

毎年行っている認知症初期集中支援の選定数や、講座への参加者数などは昨年より増加している。

なお、平塚市ではオレンジ大使に任命されている方がおらず、引き続き声をかけていきたい。

○意見・質問

大抵の利用者さんが認知症をお持ちで、利用者さんの妻や夫、親戚の相談をいただくことも多くなっている。

認知症の診断がつかない方が大変だと思っている。明らかな問題行動がないと、利用者さんを説得して、認知症専門医のところに行くことにつながらない。認知症診断がつく前からフォローアップをするような体制作りが必要ではない

か。

独居で何のサービスも入っていない人に関して、認知症サロンなどの情報提供をしたり、誘い出したりして、引きこもりにならないようにできたらと思う。

(2) 令和5年度平塚市在宅医療・介護連携推進事業の取組結果について

・地域包括ケア推進課 鈴木担当長による資料2を用いた説明。

これまで新年度の第1回に文章で公表していたものを、計画の中に進捗状況を落とし込む形に変えた。またそれぞれの項目に対して次計画に盛り込む内容を付け加えた。計画以上の取組例は以下のとおり。

在宅介護生活サポート事業でワーキングチームを構成し、看取りに関するガイドマップを作った。

平塚市医師会の主導で高齢者施設からの救急搬送に関する検討会議を2回行い、特に施設において、救急搬送に至る前の準備が必要だということ、施設が救急車を呼ぶ前にするべき、必要な手続き、さらに、医療行為や看取りの準備につき研修を行うとした。

2月までの相談は前年度の約2倍の72件あった。

看取りに関する市民啓発として、認知症患者の意思決定支援を交えた看取りに関する講演会&シンポジウムを開催した。

小規模多機能型居宅介護とグループホームについての動画配信準備をした。

地域包括支援センターの人材育成について、企画立案し、合計8回の講座を、職階向け、職種向けに分けて行うことができた。

今回初めて自己評価を付けた。

○意見・質問

質問：あんしんファイル、サポートガイドの使い方についての研修は？

回答：実施する予定で、だいたい時期は、(3)で述べる。

質問：研修が増えたことについて

回答：各職種が各包括を横断して対面で研修を受けた意義が大きかった。同職種で悩みを打ち明けることもできた。職員も積極的に研修を受けてくれて、受けた後はイキイキしていた。来年も同様にしてほしい。

(3) 令和6年度平塚市在宅医療・介護連携推進事業の取組予定について

・地域包括ケア推進課 鈴木担当長による資料3を用いた説明

昨年同様の取組の他に次の内容の追加をする。

在宅医療、介護連携の課題の抽出と対応策の検討については、当協議会での意見聴取の他に、在宅医療・介護連携支援センターの医師会との毎月の定例会における課題抽出も同じ項目に入れることとする。

同定例会には今のところ医師会のみ出席だが、歯科医師会、薬剤師会も参加していただければと思っている。

終末期の意思決定支援の一手段としての在宅介護生活サポート事業の看取り

ツールの普及、高齢者施設における救急車の適正利用と施設看取りに関する研修を行う。

障がい者も含めた在宅医療に必要な連携を担う拠点の構築について検討する。

地域包括支援センターへの研修は3回行い、あとの5回分は基幹型地域包括支援センターが中心となっていく。

10月頃に半期の進捗についてチェックをいただく形とする。

○意見・質問

質問：ひらつか安心ファイルについて、他市との協働はないのか。

回答：検討します。

意見：看取りツールの普及をぜひ病院にもしてほしい。

意見：看取りも大事だが、ACP（人生会議）を、認知機能が低下する前にしてほしいと市民にもっと知らせてほしい。

意見：看取りツールをケアマネ、訪看、さらに訪問介護にも普及してほしい。

意見：看取りツールについて、研修では一時に受ける人が限定されるので、アーカイブ配信でいつでも受講できる仕組みがあるとよい。

意見：定例会について、歯科はオブザーバーの後、必要なら参加を考えたい。

3. 報 告

(1) 平塚市在宅医療・介護連携支援センター運営について

連携支援センターから資料4に基づいて報告した。

(2) 高齢者福祉計画（介護保険事業計画 [第9期]）素案に対する

パブリックコメントの実施結果について

地域包括ケア推進課 宮下主査 が資料5に基づいてパブリックコメントの結果概要を報告した。

(3) 平塚市在宅介護生活サポート事業について

地域包括ケア推進課 宮下主査 が資料6-1、6-2、6-3に基づき、ひらつか在宅介護生活サポートガイド案と普及啓発の方向性について報告した。

4. その他

(1) 今後の予定について 来年度第1回目は7月25日（木）を予定する。

以 上